

## 企画事業 「自然体験活動に関する研修事業」

事業名	自然体験活動指導者養成研修	
実施期間	①渡嘉敷ステージ 平成21年9月19日(土)～22日(火) ②名護ステージ 平成21年10月22日(木)～25日(日)	
担当者	企画指導専門職 中村 元	

### I 事業の趣旨

平成20年度より、文部科学省は「次代を担う自立した青少年の育成を図るため、小学校における長期自然体験活動の指導者養成等必要な支援に取り組むとともに、青少年の様々な課題に対応した体験活動を充実するため、地域における経験豊かな人材や施設の協力を得て、青少年の課題に対応した自然体験や生活体験などの体験活動の在り方を検討・実証するとともに、効果について把握し、その成果や課題を全国に普及する。」という趣旨の「青少年体験活動総合プラン」を実施している。

本事業はその中の「小学校長期自然体験活動支援プロジェクト・自然体験活動指導者養成事業」である。

### II 事業の概要

#### 1 事業の目的

本事業は、小学校が実施する一週間程度の自然体験活動を支援するための全体指導者と補助指導者を養成する事業として、3泊4日の文部科学省の共通カリキュラムに則り実施する。

世界有数の貴重な“サンゴ礁の海”が広がる渡嘉敷島に立地した本施設では海洋型、また、世界でも希少な生物たちの宝庫である“やんばるの森”に立地する沖縄県立名護青年の家では山型の体験活動をテーマに、それぞれのフィールドや施設の特色を活かしたプログラムを企画・立案し、渡嘉敷・名護のそれぞれのステージで全体指導者及び補助指導者を養成する。

また、本事業の成果や課題を明確にするため、実施後に各関係者ととも事業の検証・評価を行い、事業企画・推進体制の整備に努める。

#### 2 参加対象及び募集人員

青少年教育関係者、学校教育関係者、その他自然体験活動に興味・関心のある者で、小学校の長期自然体験活動の全体指導者又は補助指導者として活動・協力する意思のある方を各ステージで全体指導者と補助指導者を合わせて20人募集した。

#### 3 参加状況

- (1)全体指導者  
渡嘉敷ステージ 男性7名、女性4名  
名護ステージ 男性6名、女性2名
- (2)補助指導者  
渡嘉敷ステージ 男性2名、女性1名  
名護ステージ 男性3名、女性1名



【自然体験活動の技術・スノーケリング】

#### 4 事業内容

小学校における自然体験活動のプログラムを企画・立案する際に必要な知識と企画力、そして、野外活動で指導する際に必要なスキルを身につけながら、事業期間中に体験した活動内容やフィールドを活かした自然体験活動プログラムの企画演習を行った。

- (1)講義Ⅰ「学校教育における体験活動の意義」
- (2)講義Ⅱ「教育課程と体験活動の関連性」
- (3)講義・演習「プログラムの企画立案」
- (4)実習「自然体験活動の技術」
- (5)講義・演習「体験活動の指導法」
- (6)講義・実習「安全管理」



【体験活動の指導法・やんばるの森を歩く】

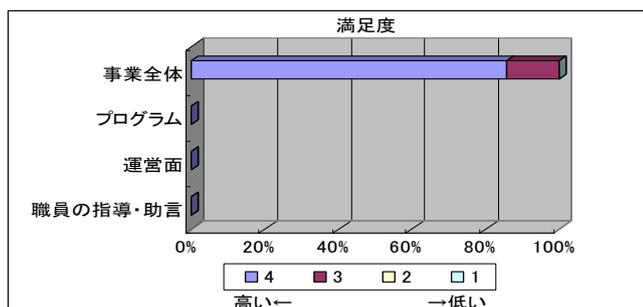
## 5 実施上の留意事項

共通カリキュラムに係る講師や他施設職員との連携など、多くのスタッフが係わるため、プログラムの全体の流れや各講義、活動などのねらいを明確にする。

参加者によって、野外活動の経験やスキルが様々であることから、グループ活動を中心に参加者同士が学校教育における自然体験活動の意義や現状を理解し、互いの経験やスキルについて、学び合える環境作りに努める。

## 6 アンケート結果

事業の趣旨から事業全体の満足度のみを調査した結果86%の満足度を得ることができた。



自由記述項目からは、以下のような声が寄せられた。

### (1) 気づいたこと、提案、改善点、感想など

- ・ 今回の研修会で、企画事業を作るにあたって、コンセプトや想い、安全管理への配慮、その他にもたくさん考えることがありました。
- ・ 実際に企画するにはまだまだ心細いため、横のつながりを維持、発展するための企画が必要かと思う。
- ・ 3泊4日は適度な長さだと感じたが、多少スケジュールが詰め込んだ部分があったように感じた。
- ・ 指導者として、これから学ぶべき方向性を示して下さった。スケジュールが過密で参加者同士の交流が少なかった。
- ・ 実践を通して、学べたこと体験できたことがとても勉強になった。
- ・ 学校長期自然体験活動が実際に始まるのか不安。



【体験活動の指導法・クラフトと手遊び】

### (2) 今後、実際に指導するにあたり必要な研修

- ・ 単発だけの経験、数年前の経験になると、指導者として、億劫になり、負担に感じ、せっかくの登録が無駄になりかねない。2～3年に1回、希望者で集まる研修が必要だと思う。

- ・ 教育現場の現状や学校の教育課程など、どのような仕組みなのかの講義などが必要である。
- ・ 学校現場の教師と一緒に研修をする。教師との思いや考えの共有化や連携ができる場が必要である。
- ・ 実際に、子どもたちを前にして何か活動する実習が必要である。
- ・ 補助的に実際の活動に参加できる制度が欲しい。

## III 成果と課題

### 1 事業の成果

- (1) 実践を通して、自然体験活動の教育効果や野外活動の基本的なスキルを伝えることができた。
- (2) 名護青年の家のプログラムを活用することで、両施設の連携や運営、プログラムの充実が図られた。
- (3) 指導者養成研修に関わる講師陣の充実が図られた。
- (4) 連絡協議会において、講師陣の大学関係者との連携等について、幅広い意見や方向性が示された。



【プログラムの企画立案・プレゼンテーション】

### 2 今後の課題

課題は、大きく分けて以下の4つに絞られる。

#### (1) 募集対象の絞り込み

参加者が少ない要因の一つとして、参加対象が、職を持つ社会人であるため平日開催した場合、仕事の都合上、参加は困難である。また、指導者として認定された後、長期に自然体験活動の指導者として、職場や家庭を離れることは難しいとの考えが要因と推察する。教員養成課程のある大学と連携し、養成する指導者の対象を教職を目指す学生に絞ることも検討したい。

#### (2) 指導者養成研修プログラムの改善

全カリキュラムを実施するには3泊4日の日程を要することが参加を困難にしている。日程を短縮した分割型のプログラムを検討したい。また、スキルアップやフォローアップ研修なども必要である。

#### (3) 小学校長期自然体験活動の普及・啓発

小学校への長期自然体験活動の周知が不十分であり、教職員に本事業への理解を深めるための調査研究及び教育委員会との連携、強化による普及・啓発が必要である。